



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyoy/>

わが岐阜は、今年創立六十周年を迎えることとなった。所謂還暦の年齢となった訳である。

一口に六十年といっても、この間には色々と紆余曲折があり、これを見事克服して、現在の岐響が存在する。関係者は元より地域社会にとり岐阜の芸術文化にとつても喜ばしいことである。

私も理事長という立場になってから既に二十年以上が経ち、副理事長時代を合わせると六十年の歴史の半分ほどは岐響に携わった事となる。今更の如く年の経つのは早いのを痛感すると共に、この間の色々な出来事を思い出している。

ここで岐響六十年の歩みを簡単に振り返ってみることにする。



「創立六十周年を迎えて」

公益社団法人岐阜県交響楽団
理事長 岡本 太右衛門

昭和二十八年（一九五三年）岐阜交響楽団創立。昭和五十年（一九七五年）社団法人化とともに岐阜県交響楽団と改称。昭和五十一年（一九七六年）交響詩「良良川」誕生。平成五年（一九九三年）創立四十周年、交響曲「岐阜」誕生。平成十年（一九九八年）創立四十五周年、練習場完成。平成十五年（二〇〇三年）創立五十周年、「サントリーホール」公演。平成二十一年（二〇〇九年）に創立五十五周年「ウイーン楽友協会」公演。平成二十五年（二〇一三年）創立六十周年行事。

何といつても練習場の建設が大きな節目となった。これによって弾みがつき、岐響は飛躍的發展を遂げることが出来た。それまでは、毎月毎週練習場の確保に悪戦苦闘していた。一時はボーリング場の跡地を借入れ小康を得たが、これも取り壊されることとなり、再び流浪の民に戻された。是非自前の練習場が欲しいとの団員・役員の熱望が結集し、各方面に働きかけ遂に平成十年、創立四十五周年の記念すべき年に現練習場が完成した。このような練習場を持ったアマオケは、日本は勿論世界でもあまり例はなく、岐響の誇りである。

完成式の会場で私は皆さんにこう宣言した。この練習場は団員が心地よく、趣味を満足させるために出来たものではない。各自の音楽技術を向上させ、聴衆に感動を与えるオーケストラとなること、地域社会に貢献し、岐阜県の芸術文化のシンボルの存在に発展することを目標に掲げる。

そして先ず具体的な目標、挑戦すべき課題を決定した。

それは日本に於ける最高の音楽ホールである「サントリーホール」での創立五十周年記念コンサートの実施である。魚が木に登るような計画だとの批判もあったが、大きな目標に向かってチャレンジすることにより、初めて脱皮的向上を図れる訳であり、団員も目の色を変えて練習に取り組んだ。あのサントリーホールに満席の聴衆を迎え大成功の公演を実現し、感激の涙の中、打ち上げ会的美酒に酔いしれた。

「次は海外へ」と目標をさらに大きく掲げた。

世界最高のホール、ウイーンの楽友協会「ムジークフェライン」で五年後の五十五周年公演を行う

年の記念すべき年に現練習場が完成した。このような練習場を持ったアマオケは、日本は勿論世界でもあまり例はなく、岐響の誇りである。

完成式の会場で私は皆さんにこう宣言した。この練習場は団員が心地よく、趣味を満足させるために出来たものではない。各自の音楽技術を向上させ、聴衆に感動を与えるオーケストラとなること、地域社会に貢献し、岐阜県の芸術文化のシンボルの存在に発展することを目標に掲げる。

そして先ず具体的な目標、挑戦すべき課題を決定した。

それは日本に於ける最高の音楽ホールである「サントリーホール」での創立五十周年記念コンサートの実施である。魚が木に登るような計画だとの批判もあったが、大きな目標に向かってチャレンジすることにより、初めて脱皮的向上を図れる訳であり、団員も目の色を変えて練習に取り組んだ。あのサントリーホールに満席の聴衆を迎え大成功の公演を実現し、感激の涙の中、打ち上げ会的美酒に酔いしれた。

「次は海外へ」と目標をさらに大きく掲げた。

世界最高のホール、ウイーンの楽友協会「ムジークフェライン」で五年後の五十五周年公演を行う

事とした。種々の好運と、県、市、各団体及びウイーン市民の絶大な支援に恵まれ、夢のような公演をあつ「黄金ホール」に満席の来場者を迎え見事に実現することが出来た。

今度の六十周年行事は団員の総意の上、纏った結論に従うこととなった。

今日まで何かと支援して頂いた地域の方々に感謝し、少しでも地域の文化活動に貢献するようなコンサートの開催、そして三・一一震災の復興を願うと共に、大曲・難曲への挑戦という意味で、マーラーの交響曲第二番「復活」の演奏となった。この大事業も必ず成功裏に成し遂げると信じている。

六十周年、岐響創立の際のリーダー宮崎直一先生は絶えずこう言っておられた。

「地域の文化のパロメーターは、地域の交響楽団である。オーケストラがしっかりしていない地域は、文化不毛の地域である。」

我々岐響は、地域文化の担い手としての責任と自覚を待たねばならない。更なる飛躍へと邁進することを期待する。

六十周年、岐響創立の際のリーダー宮崎直一先生は絶えずこう言っておられた。

「地域の文化のパロメーターは、地域の交響楽団である。オーケストラがしっかりしていない地域は、文化不毛の地域である。」

我々岐響は、地域文化の担い手としての責任と自覚を待たねばならない。更なる飛躍へと邁進することを期待する。

六十周年、岐響創立の際のリーダー宮崎直一先生は絶えずこう言っておられた。

「地域の文化のパロメーターは、地域の交響楽団である。オーケストラがしっかりしていない地域は、文化不毛の地域である。」

我々岐響は、地域文化の担い手としての責任と自覚を待たねばならない。更なる飛躍へと邁進することを期待する。

『魂の復活』に未来を託して

記念公演指揮者 井村 誠貴

「大事な話があります！会えませんか？」そんな一本の電話を頂戴した。それから間もなくして岐響の主要メンバーの方々が大阪に来られた。

「是非とも六十周年記念公演の指揮をお願いしたい！曲は、マーラーの『復活』で！」

驚いた。でも素直に嬉しかった。指揮者にとって、団の記念すべき節目の演奏会を指揮させて頂ける事は、本当に嬉しい事だ。と思ったのも束の間、その責任の重大さが大きなプレッシャーとなつて襲ひ掛かつてきた。岐響の六十年に渡る輝かしい歴史に、名だたる指揮者の方々が指揮台に立つてこられた。私にその諸先輩方の想いを受け継ぐ事が出来るのか？色々な想いが交錯する。それ

でも迷いはなかった。重責ではあるが、大好きな岐響の六十周年を指揮できる喜びが勝った。二〇一一年のクリスマスの夜の事である。(通天閣にて)

六十年と言えば、人間で言う『還暦』だ。六十周年を迎えた岐響にとつても重要な節目だ。今から六十年前の一九五三年ともなると、まだまだ戦後十年にも満たない大変な時期だったと容易に想像がつく。この年、初めてのテレビ放送が始まるなど、人々が『娯楽』への道を開いた元年と言つてもよい。そんな年に岐響は生まれたのだから全く凄い！この間、今日に至るまで多大なご努力とご苦労があつたであろう。一口に『岐阜にオーケストラを創る！』と

言つても簡単な事ではない。楽器は？練習場所は？そして一緒に音楽をする仲間は何？そんな幾多の苦勞を乗り越え、創立に携わつた方々には頭が下がる。そして心から感謝申し上げたい。

私と岐響との出会いは、今から遡

る事十五年前の一九九八年に、第三回岐阜県オーケストラフェスティバルでの練習指揮者として参加したのが最初の出会いだった。記憶は定かではないが、合同オーケストラは百名を越え、打楽器は遥か遠くにいた事を覚えている。岐響のメンバーだけではなかったが、その練習の後、翌年の第五十七回定期演奏会の本指揮者として依頼を頂戴した。まだまだ駆け出しの指揮者(二十八歳)だった私にとって、岐響を指揮出来るなんて夢のようだった。それから十五年。実に五回の定期演奏会、三度のファミリーコンサートそして忘

れられない岐阜三千人の第九など、これまでに十二回にも及ぶ演奏会と一緒に作り上げて来られたことは、私にとって代えがたい大切な時間で、何よりも私自身の礎となった。気がつけば、岐響十五年間では、最も多く指揮台に立たせて戴いた指揮者になつていた。



▲第57回定期演奏会

全く驚かされたのは岐響が世界に誇る練習場を完成させたことだ。プロのオーケストラですら自前の練

習場を持ち合わせている楽団は少ない中、アマチュアのオーケストラが見事な練習場を建てたのだ。岐響のみならず、文化を大切にしたいと願う岐阜県民の想いが詰まっている、言わば『岐阜の誇り』だ。世界的にみても類を見ない事をやってのけた岐響は、この練習場を最大限に生かし、愛好家としての音楽活動から、地域に密着した活動を続ける社会的にも存在意義のあるオーケストラへと変貌を遂げた。

そして迎えた六十周年記念公演。岐響が選んだマーラーの『復活』には、様々な想いと願いが込められている。楽曲は、アマチュアオーケストラが挑戦するには、かなりハードルの高い作品だ。五楽章に合唱が導入されていることはもちろんだが、さらにバンダ(別働隊)の設置や、一本のホルン、十本のトランペット等を必要とする規格外の編成。六十周

年記念公演には、オーケストラ百二十一名、合唱百五十五名、ソリスト二名、そして指揮者の実に二百七十九名が『復活』を奏でるのだから、そう簡単には演奏できる作品ではない。

この作品のテーマは、ズバリ『魂の復活』だ。『よみがえるだろう、そうだ、おまえはよみがえるだろう』勿論この言葉はキリスト教に基づくもので、最後の審判と復活という概念は、正にキリスト教そのもの。がしかし、マーラーは当然ユダヤ人(ユダヤ教徒)。ところが、歌詞の中にキリスト教を強く感じさせるような言葉はなく、むしろ全世界の魂が、等しく『復活』を遂げるように書かれているのである。二〇一一年、我々の前に起こった東日本大震災。多くの命を奪い、街を壊滅させた津波。我々は自然の猛威になすすべもなく、ただただ現実を叩き付けられる

日々が続いた。ファミリーコンサートを約一週間後に控えていた岐響も、演奏会の中止を検討していた。「こんな時に音楽をして良いのか」という自問自答が続いた。何度も話し合った結果、コンサートはチャリティーコンサートという形で開催。多くの義援金が寄せられた。この義援金は私に大きな力をもたらしてくれた。

私達には『音楽』があるのだ。音楽を奏でることで義援金が集まる。何もしなければ義援金はおろか、社会における音楽の存在自体を否定しかねない状況だった。私の魂は岐響と共に『復活』したのだ。その後、大阪でチャリティーコンサートを開催し、本年度までに千五百万円を超える義援金を被災地に届ける事が出来た。その魂は、日本人に留まらず全世界から東日本の復活を支援する希望の絆として届けられた。まだまだ東北は復活していない。いま我々は、マーラーという大作曲家の力を

借り、東日本大震災で亡くなられた魂が復活する事を強く願っている。そして、岐阜県交響楽団が新たな時代の幕開けに相応しい鐘を鳴らす瞬間が来た。六十年間の礎の上に、永遠に滅びることのない『魂のオーケストラ』の開演だ。この『復活』に未来を託して。



▲『復活』練習風景(練習場にて)

六十年を振り返って

岐響創立六十周年にあたり、今までの皆様の厚いご支援に対しお礼をさせていただくと共に、これからの活動の足がかりとしていく意味を含めまして記念事業を推し進めることとなりました。ここに、岐響六十周年の歴史を振り返りたいと思います

昭和28年9月	岐大教授・宮崎直一氏により「岐阜交響楽団」として発足
29年11月	交声組曲「鶉飼」(安井万治作曲)初演
32年10月	第一回定期演奏会を開催
42年1月	練習場を岐大校舎より商工会議所に移転、新組織にて再開
43年5月	第一回ポピュラーコンサートを開催
48年9月	NHK岐阜テレビ出演
50年4月	社団法人として改組、「岐阜県交響楽団」に改称
50年6月	秋山和慶を客演として招く(その後名誉指揮者となる)
51年7月	交響詩「長良川」(團伊玖磨作曲)初演
58年8月	創立三十周年記念・オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全三幕公演
59年11月	文部大臣より「地域文化功労賞」を受賞
60年6月	国際文化交流・姉妹都市中国杭州市にて演奏会
62年8月	常設練習会場として岐阜ボウリングセンターを借用
63年8月	第十六回全国アマチュアオーケストラフェスティバル岐阜大会の成功
平成2年7月	飛騨古川国際音楽祭事業 音楽の森への参加
4年3月	日伯国際フレンドリーコンサート開催(姉妹都市カンピナス市との交流)
5年6月	創立四十周年記念事業(委嘱作品・藤掛廣幸作曲 交響曲「岐阜」)
5年9月	日伯友好・カンピナス市立交響楽団との交流及び演奏会
6年8月	鹿児島交響楽団との交流・合同演奏会
7年12月	社団法人設立二十周年記念・第五十回定期演奏会
8年11月	岐阜県アマチュアオーケストラ連盟を結成
10年12月	岐阜県交響楽団「練習場」の竣工・完成
11年10月	第十四回国民文化祭・岐阜99「オーケストラの祭典」の成功(主管「ふるさと文化賞」受賞)



▲28年11月第1回岐阜県音楽祭



▲第16回全国アマチュアオーケストラフェスティバル岐阜大会

23年 3月	12月	11月	10月	6月	4月	22年 3月	8月	11月	20年 11月	21年 5月	12月	平成15年 11月
<p>創立五十周年記念演奏会「東京公演」(サントリーホール) 委嘱作品・池辺晋一郎作曲「夢の跡へ」オーケストラのために、世界初演 創立五十周年記念演奏会「岐阜公演」(長良川国際会議場) 地域のためのコミュニティコンサート第十回記念演奏会(岐響練習場) 岐阜県オーケストラフェスティバルを主管団体が開催し、発展 岐響「第九」特別演奏会を十五年ぶりに開催 創立五十五周年記念「ウィーン公演」(小松一彦指揮・ムジークフェライン) 創立五十五周年記念「岐阜公演」(長良川国際会議場) 團伊玖磨／交響詩「長良川」 ウェーバー／クラリネット協奏曲第1番 ドボルザーク／交響曲第8番 地域のコンサート(田中陽治指揮・岐響練習場) 第七十四回定期演奏会(井村誠貴指揮・羽島市文化センター) レスビーギ／「ローマの松」 レスビーギ／「古代舞曲とアリア」 フォーレ／「ペレアスとメリザンド」 プッチーニ／「交響的前奏曲」 瑞穂市ネオクラシックコンサート(田中陽治指揮・瑞穂市サンシャインホール) ファミリーコンサート(高谷光信指揮・長良川国際会議場) 地域のコンサート(田中陽治指揮・岐響練習場) 第七十五回定期演奏会(古住典洋指揮・長良川国際会議場) グリンカ／歌劇「ルスランとリムドミユラ」序曲 チャイコフスキー／バレエ「くるみ割り人形」組曲 ベートーヴェン／交響曲第7番 中有知小学校演奏会(田中陽治指揮・中有知小学校) 第七十六回定期演奏会(高谷光信指揮・羽島市文化センター) シベリウス／「カレリア」序曲 モーツァルト／オーボエ協奏曲 シベリウス／交響曲第2番 0歳からのピクニックコンサート(田中陽治指揮・岐阜市文化センター) 瑞穂市ネオクラシックコンサート(田中陽治指揮・瑞穂市サンシャインホール) ファミリーコンサート・東日本大震災復興チャリティコンサート(井村誠貴指揮・長良川国際会議場)</p>												
 <p>▲ 50周年記念演奏会(長良川国際会議場)</p>												
 <p>▲ 50周年記念演奏会(サントリーホール)</p>												
 <p>▲ 55周年記念「ウィーン公演」(ムジークフェライン)</p>												
 <p>▲ 50周年記念演奏会 交響曲「岐阜」</p>												

5月	4月	3月	25年1月	12月	11月	9月	7月	6月	24年3月	12月	11月	8月	7月	6月	23年4月																	
創立六十周年感謝公演「白川村公演」(田中陽治指揮・白川中学校)	創立六十周年感謝公演「御嵩町公演」(藤沢克彦指揮・御嵩小学校)	創立六十周年感謝公演「白川村公演」(田中陽治指揮・白川中学校)	名譽指揮者・小松一彦氏逝去	瑞穂市ネオクラシックコンサート(田中陽治指揮・瑞穂市サンシャインホール)	瑞穂市ネオクラシックコンサート(田中陽治指揮・瑞穂市サンシャインホール)	山田一雄(生誕百年)／大管弦楽のための交響的「木曾」作品12	ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲第一番 短調作品26	シューマン／交響曲第三番変ホ長調作品97「ライン」	第八十回定期演奏会(田中良和指揮・長良川国際会議場)	東部コミセンファミリコンサート(田中陽治指揮・東部コミュニティセンター)	地域のためのコンサート「七夕コンサート」(藤沢克彦指揮・岐響練習場)	モーツァルト／「魔笛」序曲	リスト／「レ・プレリュード」	チャイコフスキー／交響曲第六番「悲愴」	第七十九回定期演奏会(井村誠貴指揮・羽島市文化センター)	ファミリコンサート(高谷光信指揮・長良川国際会議場)	瑞穂市ネオクラシックコンサート(田中陽治指揮・瑞穂市サンシャインホール)	0歳からのピクニックコンサート(田中陽治指揮・長良川国際会議場)	地域のコンサート(田中陽治指揮・岐響練習場)	ブラームス／交響曲第一番	ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第二番	チャイコフスキー／「ボロネーズ」	第七十八回定期演奏会(蔵野雅彦指揮・長良川国際会議場)	ベートーヴェン／交響曲第九番「合唱つき」	團伊玖磨／交響詩「長良川」	岐阜青年会議所創立六十周年記念事業「岐阜の絆」三千人の第九合唱に協力出演(井村誠貴指揮・岐阜メモリアルセンター「で愛ドーム」)	関市文化のまつりコンサート(田中陽治指揮・関市文化会館)	リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シエラザード」	J.シュトラウス／喜歌劇「千夜一夜物語」より「間奏曲」	ポロディン／歌劇「イーゴリ公」より「ダツタン人の踊り」	第七十七回定期演奏会(井村誠貴指揮・長良川国際会議場)	「公益社団法人岐阜県交響楽団」に移行認定



▲「岐阜の絆」三千人の第九



▲『復活』練習風景

岐響と私

岐響六十周年の節目に、団員が岐響での思い出を振り返ります。

出会

打楽器 丹羽利文

私は、岐響が創立されて約十年の頃に入団しましたが、当時毎週木曜日に練習が行われていたと記憶しています。高校一年生で入団した私は、オケに参加するというよりは打楽器のメンバーにレッスンを受けて行っていたようなもので、他のメンバーにとつてほとんど足手まといだったと思います。それでも、何とか定期演奏会(第十回)のメンバーに加えてもらうことができ、とても興奮したことを覚えています。それ以来ほぼ四十五年近く、岐響にお世話になってきました。

振り返ってみると、様々な演奏会や行事などが思い出されますが、今強く心に残っていることは、普段の生活では廻り合うことがないような著名人達とステージに上ったことです。例えば、故團伊玖磨、池辺晋一郎などの作曲者や、秋山和慶などの指揮者を始めとして、デュータ(ウィーン響)、猪俣猛(ドラマー)、安藤芳広(東京都響)などの打楽器奏者などと、枚挙に暇がありません。その中で、最高の思い出は、やはりウィーン公演でのウィーン響メンバーとの共演でしょう。



▲丹羽さん思い出の写真
(1976年白川町での合宿)

岐響との思い出
フルート 長瀬裕子
大学を卒業して半年後に入団し、人生の半分以上の年月を岐響と関わって過ごしてきました。思い出の演奏会というところ、ウィーン公演、サントリーホールでの東京公演など、節目の記念公演はもろろんですが、今、改めて振り返ってみるとハラハラドキドキ、苦勞した演奏会ほど懐かしく思い出されます。

特に苦しい思い出は、入団二、三年目の「新世界」。初めてのメインのトップでした。その頃の私は、自分でも情けなくなる程、ソロはうまく吹けず、息も統がず、練習のたびに他の木管の先輩たちの冷やかな視線を感じながら、時には後ろから椅子を蹴飛ばされ(?)冷や汗もの本番でした。その後もいろんな曲でご迷惑のかけ通し。いつ岐響をやめようかと密かに考えていました。

そんな私の転機になったのはその数年後、故小松一彦先生の指揮で演奏したチャイコフスキーのバイオリン協奏曲でした。この曲は、フルートのソロもあり、今度こそは何とかちゃんと吹きたいと思い、練習を重ねました。特に小松先生の練習の時は、緊張の連続でした。いざ本番。ソリストが目覚めるような真つ赤なドレスで舞台上に現れ弾き始めた

とたん、私はその音色に魅了されましたが、とにかく自分のソロだ

けは吹ききろうと集中しました。そして終演後、小松先生から握手を求められた時は夢のような気分でした。

あれから〇十年。今も凶々しく岐響に居座り続けている私です。その後も苦勞した曲、いっぱい練習した曲ほど良い思い出になっていきます。そして、まさに今、最難関の「復活」にまたまた悪戦苦闘しています。この「復活」が一番の思い出になることを祈つて。

思い出の演奏会

ヴァイオリン 名波八重子
私が岐阜県交響楽団に入団して十七年になる。自主公演、依頼公演、その他小さい演奏会を全部含めると、百回以上の演奏会を経験してきました。それぞれのコンサートに思い出はあるが、とくに印象が深いものをあげる。

・二〇〇九年五月 ウィーン公演
(自主公演 指揮者・小松一彦)

前年の二〇〇八年から故小松先生の指導の下、ウィーン公演に向けての練習が始まった。指導は非常に厳しく、怒鳴られて泣いた人もいた。つらい練習だったが、演奏会当日、楽友協会の壮麗なホールに立ち、深く美しい響きに触れ、その夢のような時間にそれまでの苦勞が報われる気がした。練習以外の時間は観光、オペラ座でのコンサートと

ウィーンを満喫。一生の思い出となる演奏旅行になった。

・二〇一二年三月 ファミリーコンサート (指揮者・井村誠貴)

演奏会九日前に東日本大震災が発生した。一時は中止の声もあったが、理事会からの強い後押しもあり、開催することになった。この年は「祭り」をテーマにプログラムを組んでいたが、状況にそぐわないということで、急遽アンコールがバイバー作曲「弦楽のためのアダージョ」へ差し替えられた。練習時間はほとんど取れなかったが、気持ちのこもった演奏だったと思う。みんなが不安を抱える中、このときほど演奏会を開ける幸せを感じたことはない。終演後の募金活動中に「アンコールで涙が止まらなかった」と、声をかけてくれたご婦人が忘れられない。

他にも地方の小学校で行った小さなコンサートで子供たちの合唱に感激したこと、本番中にソリストが止まってしまい青ざめたことなど、思い返すときりはないが、どれも岐響にいなかつたら経験できなかったことばかりだ。「音楽芸術」は人生の嗜好品というが、こんなに長く嗜好品を楽しみ続けてこれたことに感謝しつつ、これからも音楽を楽しんでいきたい。





岐響60周年記念事業～感謝公演～



今年60周年の節目を迎え、これまで支えてくださった岐阜県の皆様に感謝の気持ちを伝えたいという思いから、「感謝公演」として演奏活動を行ってまいりました。これまでおじゃましたことのない市町村で公演し、たくさんの方に岐響を知っていただき、クラシック音楽に親しんでいただけることを願って活動しております。先に行った2公演の様子を紹介します。

御嵩町公演（御嵩小学校体育館）



東濃高校、東濃実業高校の吹奏楽部の皆さんと共演。「アイダ」を演奏しました。

指揮者コーナーでお客様と触れ合いました。



♪お客様の感想♪

- ・ 楽器の紹介などがあり、クラシックを理解しながら楽しめました。
- ・ 全体の雰囲気がとてもやわらかく、アットホームなコンサートでした。
- ・ 御嵩町の歌をオーケストラバージョンで聴いたのは初めてで良かった。

白川村公演（白川中学校体育館）



休憩時には、多くの子が楽器体験にきてくれました。

小中学校の皆さんと校歌や合唱曲で共演しました。



♪お客様の感想♪

- ・ おもしろかったです。ほんもののがつきをみたのははじめてです。(小学1年生)
- ・ 気持ちがおだやかになって、笑顔になれたので、私もオーケストラをやってみたいなあと思いました。(小学3年生)
- ・ 「カルメン」という曲は知っていたけれど、目の前で演奏を聴くとやっぱり違うし、とても迫力があってすごかったです。(中学3年生)

今後、感謝公演として美濃加茂市と笠松町の2公演を行ってまいります。気持ちを込めて演奏させていただきます。